

## 「教会カフェ、食べ物、いのちのパン」

国分寺キリスト教会では先月6月21日(土)に教会カフェ&ワークショップを開催しました。昨年と一昨年は11月に教会カフェ&バザーを開催し、今年はバザーではなく、キーholder作り、しおり作り、フラワーアレンジメントをしました。今から10年以上も前の2014年5月24日(土)、プレハブの礼拝堂だった時に、初めて「教会カフェ」を開催しました。地域にも開かれた、実に感謝なひとときでした。今回は冷たいボルシチとくるみパンの提供もあり、初めて召しあがった方もおられました。



皆さんは普段、朝食に何を召し上がるでしょうか。主にお米を食べる方、パンが多い方、あるいは半々という方、朝はほとんど食べないという方もおられます。最近はお米のニュースが毎日のように流れていますが、日本に住む私たちの主食がお米であることを考えると、深刻な課題です。日本の「食文化」というものはずいぶん変わってきていると言われます。かつては和食が当たり前だった時代も変化し、食事は欧米型に変わりつつあると言われます。マクドナルドなどが「朝マック」「夜マック」などを販売しているように、どちらかというとそのようなスタイルに変更している若者も増えているかもしれません。私はアメリカに3年半ほど滞在していましたが、最初の頃は、ファーストフードのハンバーガーはお昼にだけ食べるものだと思っていました。夕食にファーストフード店で、ハンバーガーを食べるアメリカ人のことを偏見の目で見ていましたし、自分には考えられないことでした。しかし、現地での生活が慣れていくにつれて、自分自身が夕食にハンバーガーを食べることに抵抗がなくなり、そうすることもたまにありました(基本は学生食堂でした)。その国の文化や習慣を受け入れることは時として難しいこともあります、自然と受け入れていく自分がいることに気づかされたのです。

先日、長男と宇多津町に行く機会あり、スマホの地図で調べると宇多津町と丸亀市の比較的近いところに「モスバーガー」が2店もありました。そこで食べたハンバーガーの影響を受けて、早速、その日の夕食に、家で長男と一緒にオリジナルハンバーガーを作りました(右の写真)。



イエス・キリストがこの地上に生きておられた時代、「パン」が主食でした。現代の私たちが食べるパンのように、バラエティに富んだパンとか、人気のある「もちもち」したパンではありませんでした。聖書の中にも、「パン」に関する記事は多く出てきます。聖書では「パン」は人間の空腹を満たすものとして、かつてイスラエルの民が、エジプトを出てから、荒野で神様が天から降らせた「マナ」は「天からのパン」と呼ばれました(出エジプト記16章4節)。また申命記8章3節には、「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きる。」とあり、新約聖書でも引用されています。「主」とは神様のことです。十字架にかかる前夜の「最後の晚餐」(ばんさん)でも、イエス・キリストがパンを取り、それを裂いて「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」(マタイ26章26節)とおっしゃって、パンを弟子に与えました。ある時、イエス・キリストは、ご自分のことを指して「わたしがいのちのパンです。」と宣言されました(ヨハネ6章35節前半)。子どもたちに大人気の「アンパンマン」は、自分のからだの一部がパンであって、必要な人にパンを食べさせます。自分を犠牲にしてまで、困った人のために尽くす、まさにヒーローです。その一方でキリストは、ご自分が天から下ってきた「まことのパン」であることを語られました。キリストのことばの続きを読んでいくと、「わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことがありません。」とあります(ヨハネ6章35節後半)。ここでの「飢え渴き」は肉体的な飢え渴きではなく、むしろ心の内側、心の奥深い部分のことを語っておられます。このようにしてイエス・キリストは招きのことばすべての人に語られていますし、これは確かな約束でもあります。

救い主イエス・キリストはアンパンマン以上の犠牲を払ってくださいました。それは私たちの、神様に対する背きの罪のために身代わりとなって、罪の罰を受けてくださいり、十字架上で死んでくださったのです。そして3日目によみがえられ、多くの人たちの前に現われて、天に帰られ、私たちの目には見えませんが、今も生きておられるお方です。だからこそ、世界中のキリスト教会では毎週、礼拝がささげられているのです。すでに上記に書いたイエス・キリストの招きのことばを、自分自身への語りかけとしてぜひ受け止めてくださいり、イエス・キリストにあるいのちの豊かさの中に生かされて、神様の平安のうちを歩むことができますように、お祈りいたします。